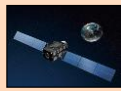
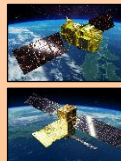


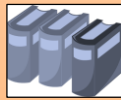
現行研究開発基本計画策定後に起きた主な出来事

- 

平成27年9月関東・東北豪雨
平成28年4月熊本地震
平成29年7月九州北部豪雨
- 

準天頂衛星「みちびき」（QZSS）の打ち上げと4機体制の運用開始及び後継機打ち上げの閣議決定
- 

IVSによる新たな国際的VLBI 観測の標準仕様「VGOS」の提案
- 

陸域観測技術衛星2号（ALOS-2）の運用開始
先進光学衛星（ALOS-3）及び先進レーダ衛星（ALOS-4）の仕様及び打上げ予定時期（平成32年度）の公開
- 

第5期科学技術基本計画（H28～32）の閣議決定（H28.1.12）及び新しい地理空間情報活用推進基本計画の閣議決定（H29.3.24）

情勢や評価を踏まえた今までの対応

- 災害対応の経験や教訓**
無人航空機（UAV）を活用した災害時の空撮を推進するための体制「国土地理院ランドバード」を発足し、立ち入りが困難な災害現場の状況を把握し、速やかな提供・共有をおこなった。また、地震時地盤災害推計システム（SGDAS）については運用段階に入っており、熊本地震では土砂災害と液状化に関するシステムにより予測結果の評価を実施した。
- 準天頂衛星などマルチGNSS化への対応**
マルチGNSS化に伴う衛星測位の利用を拡大し、解析手法の開発及び公共測量等に適用するための技術的・制度的検討を行って作業規程の準則へ反映した。
- VGOS**
石岡VLBI観測施設においてのVGOS観測システムの構築を行い、安定的なVGOS観測実施に向けた試験観測及び装置の調整に着手した。
- 陸域観測技術衛星2号「だいち2号」（ALOS-2）の運用開始**
陸域観測技術衛星（ALOS）の後継機の打上げ・運用開始を受け、ALOS-2データの全国解析における斜面変動の抽出及びそれを解釈する手法を開発し、地形情報を効率的に防災に利用することを可能とした。
- 地理空間情報の高度な活用の推進**
地理院地図におけるベクトルタイル表示機能の開発や提供実験の実施、立体模型のデータや触地図等作成支援ツールの作成、地球地図データ等の提供等、地理空間情報の高度な利活用を事業に反映。

計画の見直しのポイント

- 高精度な測量成果の整備・提供に資する技術、世の中のニーズや事業と研究開発の連携
- 科学技術基本計画や国土交通省技術基本計画等の政府の諸計画に基づく視点
- 「国の研究開発評価に関する大綱的指針（平成28年12月21日内閣総理大臣決定）」に基づく評価の観点

現行計画の基本的課題及び重点研究開発課題

地理空間情報の整備力・活用力の向上のための研究開発

重点研究開発課題

- ① 地理空間情報の整備力向上のための研究開発
- ② 地理空間情報の高度活用を推進するための研究開発
- ③ 宇宙技術の活用により位置情報の整備・維持・更新を行うための研究開発
- ④ 地理空間情報の三次元化などの多様化へ対応するための研究開発

次世代の地理空間情報活用社会の実現のための研究開発

重点研究開発課題

- ① 次世代衛星測位技術の効果的・効率的活用に関する研究開発
- ② 世代の地理空間情報の整備・提供・活用方法に関する研究開発

防災・減災のための研究開発

重点研究開発課題

- ① 現状における国土の危険性を把握し、情報提供するための研究開発
- ② 災害時の状況を速やかに把握し、情報共有・提供するための研究開発

地球と国土を科学的に把握するための研究

重点研究開発課題

- ① 地殻活動の解明のための研究
- ② 地球と国土の科学的把握に基づく測地基準系の高度化のための研究
- ③ 地球と国土の環境を科学的に把握するための研究